森六
MORIROKU

2024年3月期第２四半期
決算説明会

東証プライム　4249

森六ホールディングス株式会社

2023年11月17日

目次

1. 2024年3月期 第2四半期決算　P. 2

2. 2024年3月期 業績予想　P. 14

3. 企業価値向上に向けた取組み　P. 17

4. 参考資料　P. 31

1．2024年3月期　第２四半期決算

2024年3月期第２四半期　事業環境（対計画比）

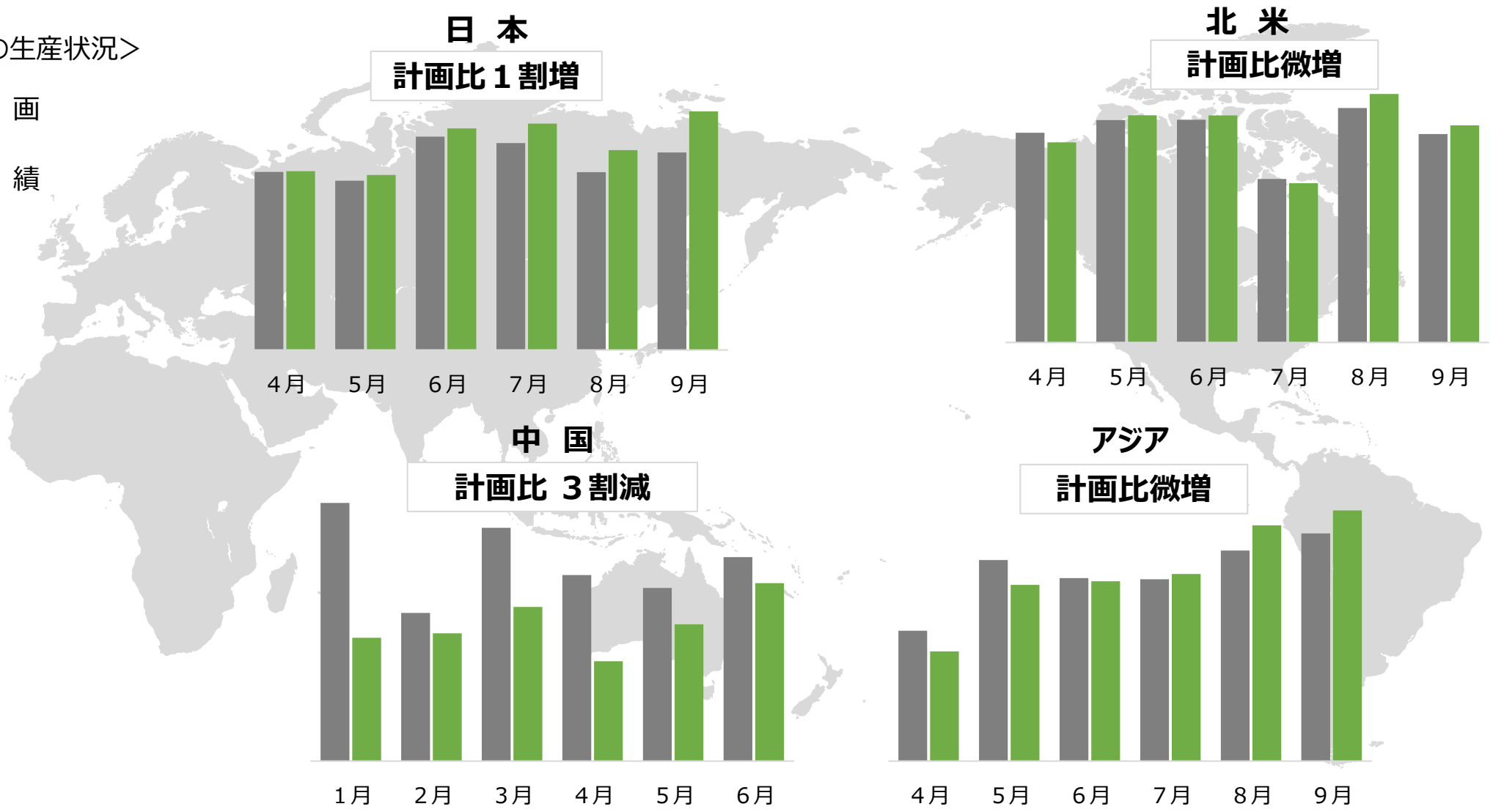
森六 MORIROKU

12月決算の中国以外の地域において、自動車生産の回復が進む

<各国の生産状況>

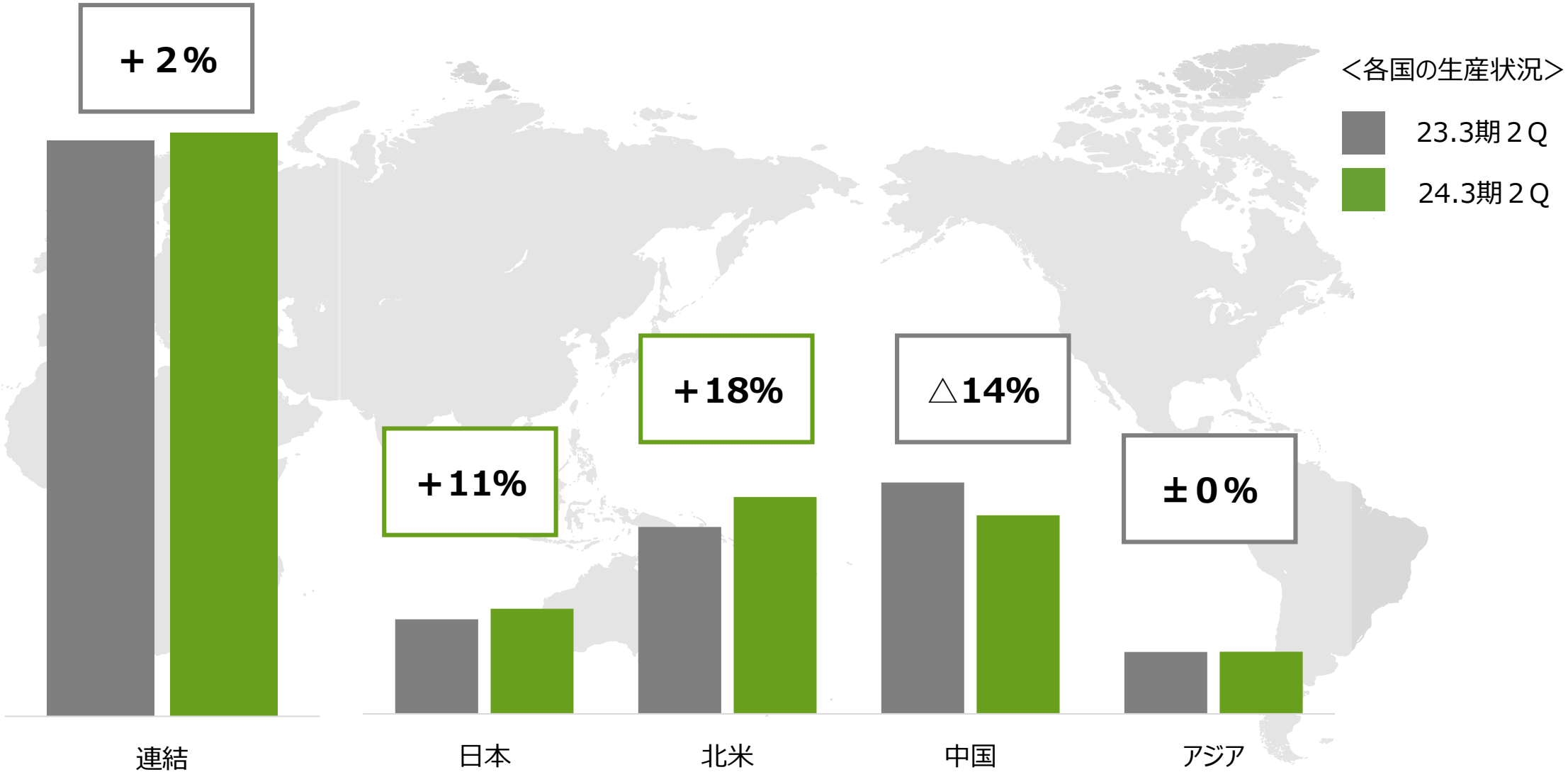
計　画

実　績



2024年3月期第２四半期　事業環境（対前年同期比）

中国の減産が響き、前年同期比では、ほぼ横ばい



2024年3月期第２四半期　連結業績

森六 MORIROKU

中国の減産影響はあったが、その他の地域の回復と生産の安定化により、減収増益
為替差益や税負担率の低下により、経常利益、四半期純利益とも増益

（億円）

	23.3期 2Q	**24.3期 2Q**	増減額	増減率
売上高	693	**669**	△ 24	△3.5%
営業利益	△0	**10**	10	-
営業利益率	△0.1%	**1.6%**	-	-
経常利益	3	**15**	12	381.9%
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 6	**9**	15	-
EPS（円）	△38.99円	**64.56円**	103.55	-
一株配当(円)	47.00円	**50.00円**	3.00	6.4%
為替（USドル）	134.1円	**141.1円**	7.0	5.2%
（中国元）	19.0円	**19.5円**	0.5	2.6%
ナフサ価格（円/kl）	83,800円	**65,600円**	△ 18,200	△21.7%

2024年3月期第２四半期　セグメント別業績

森六 MORIROKU

樹脂加工製品事業：日本、北米、アジアは回復傾向も、中国の生産減が響く
ケミカル事業：顧客の在庫調整の影響により、前２Qに比べて、販売数量が減少

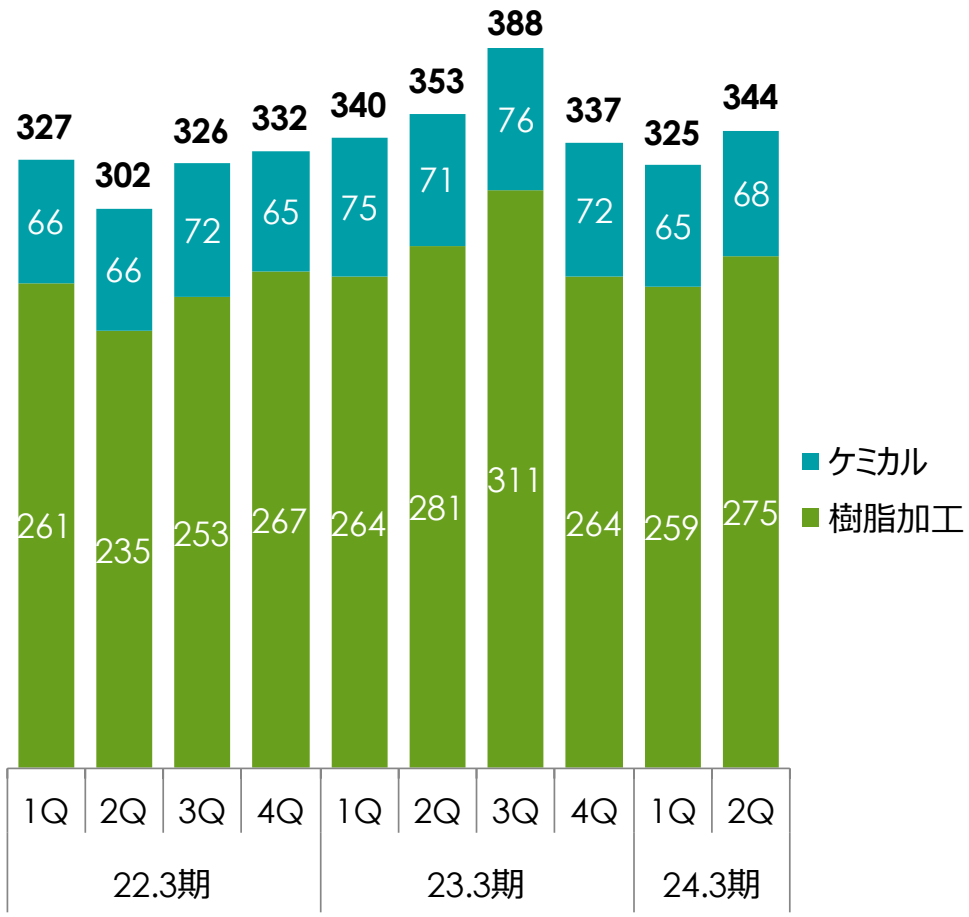
（億円）

	23.3期 2Q	24.3期 2Q	増減額	増減率
売上高	693	**669**	△ 24	△3.5%
樹脂加工製品事業	545	**535**	△ 10	△2.0%
ケミカル事業	147	**134**	△ 13	△8.9%
営業利益	△0	**10**	10	-
樹脂加工製品事業	△ 8	**4**	13	-
ケミカル事業	9	**7**	△ 2	△21.6%
営業利益率(%)	△0.1%	**1.6%**	-	-
樹脂加工製品事業	△1.6%	**0.8%**	-	-
ケミカル事業	6.5%	**5.6%**	-	-

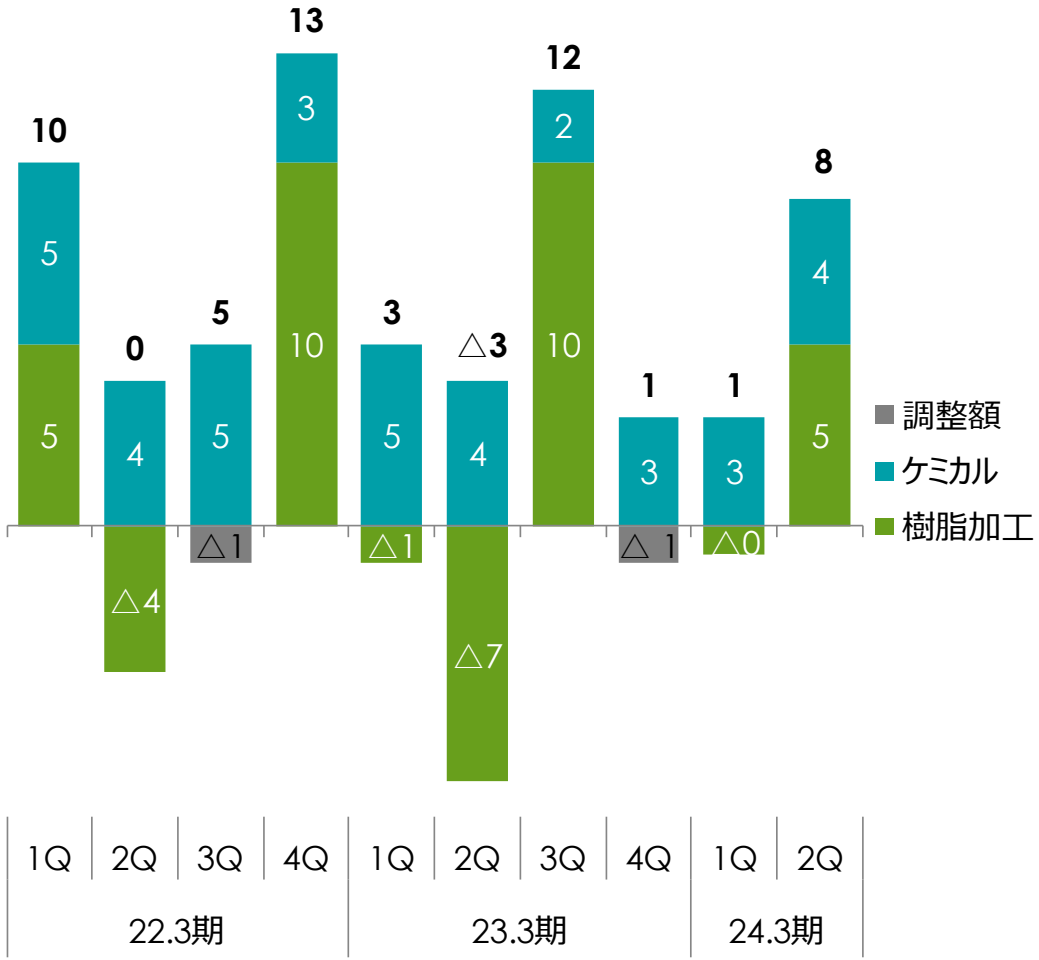
セグメント別・四半期推移

樹脂加工製品事業：中国以外の地域で高グレード車が増産
ケミカル事業：樹脂加工製品領域における一過性の金型利益を計上

セグメント別・四半期売上高（億円）

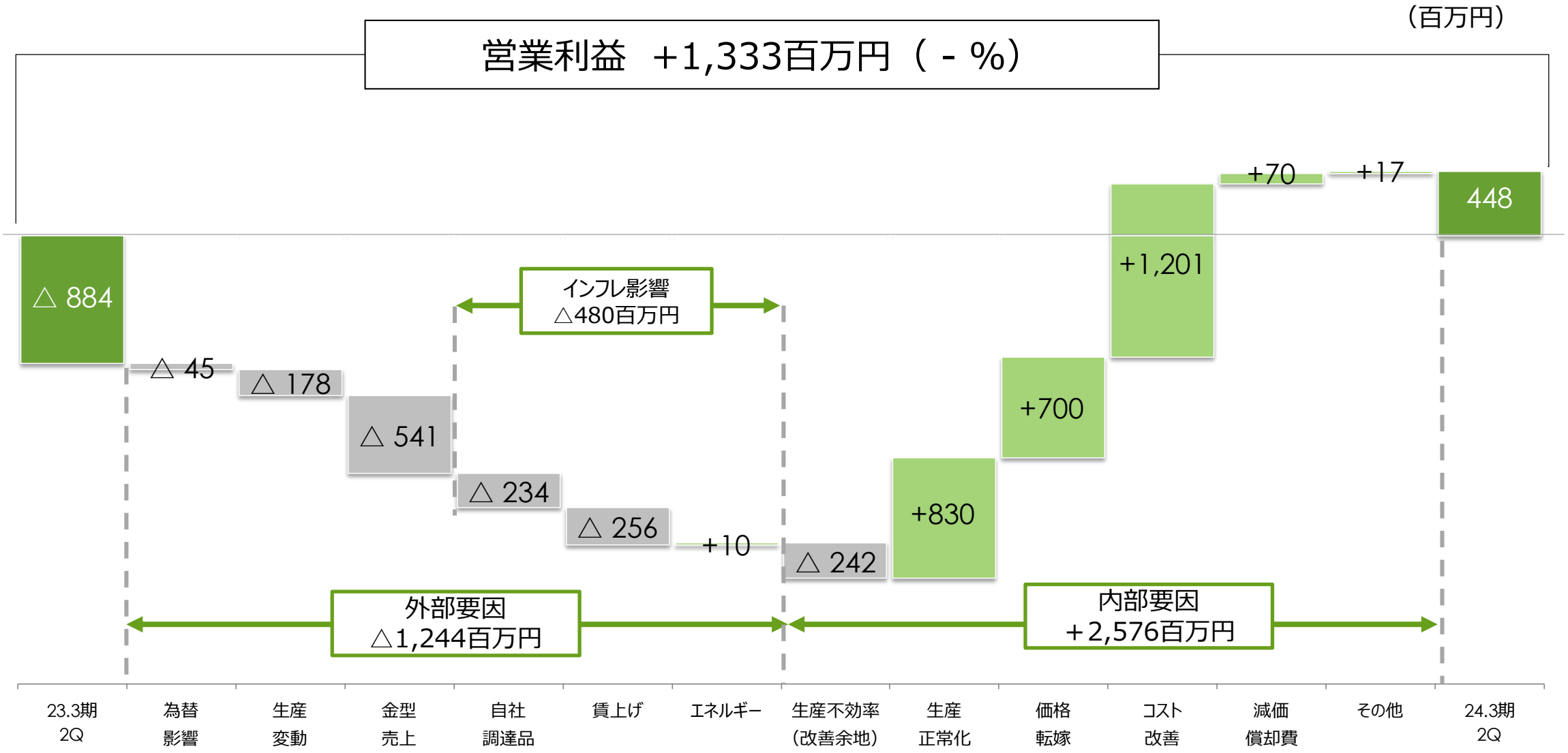


セグメント別・四半期営業利益（億円）

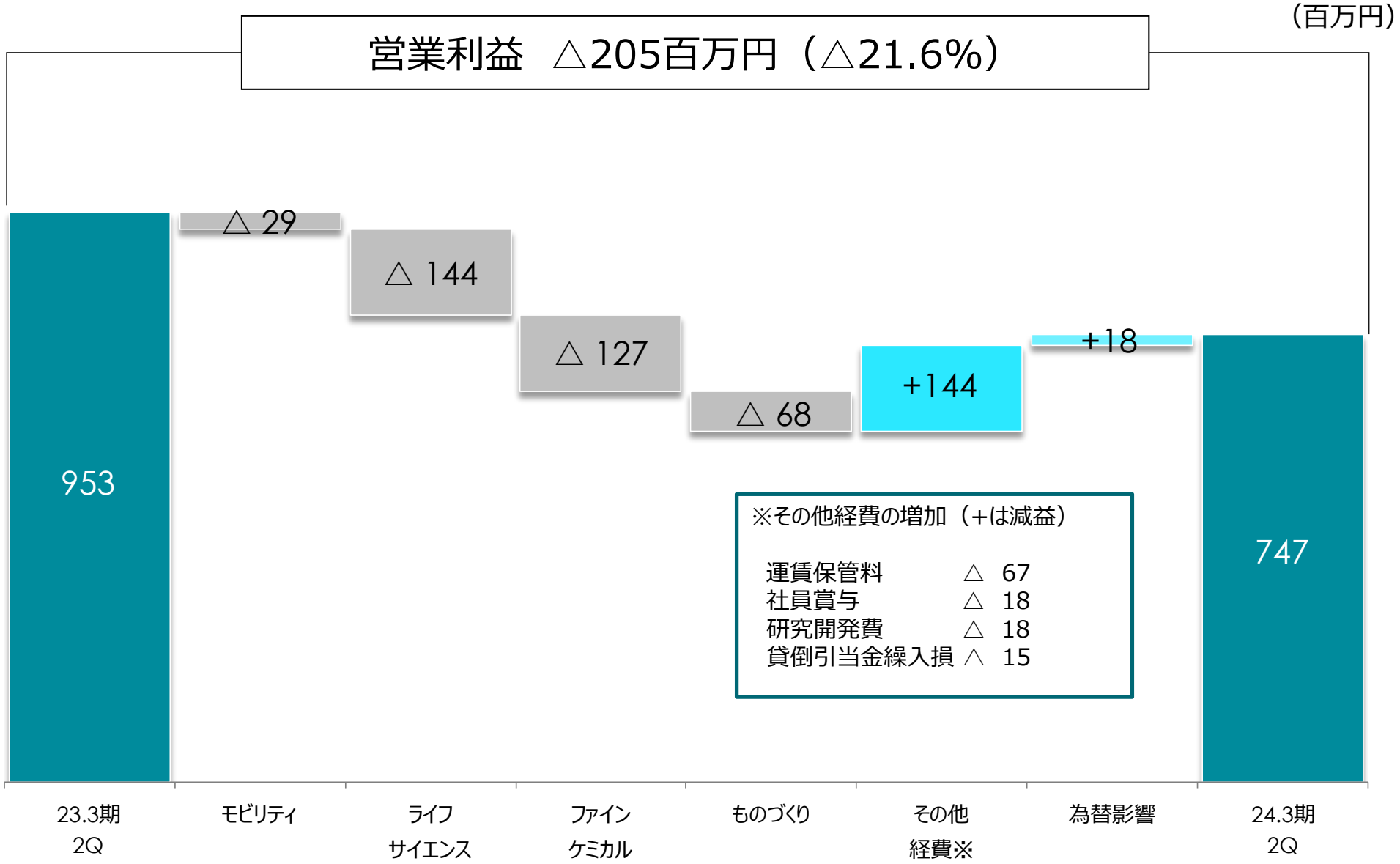


※　１億円以下の調整額は、表示しておりません。

樹脂加工製品事業・営業利益 増減分析



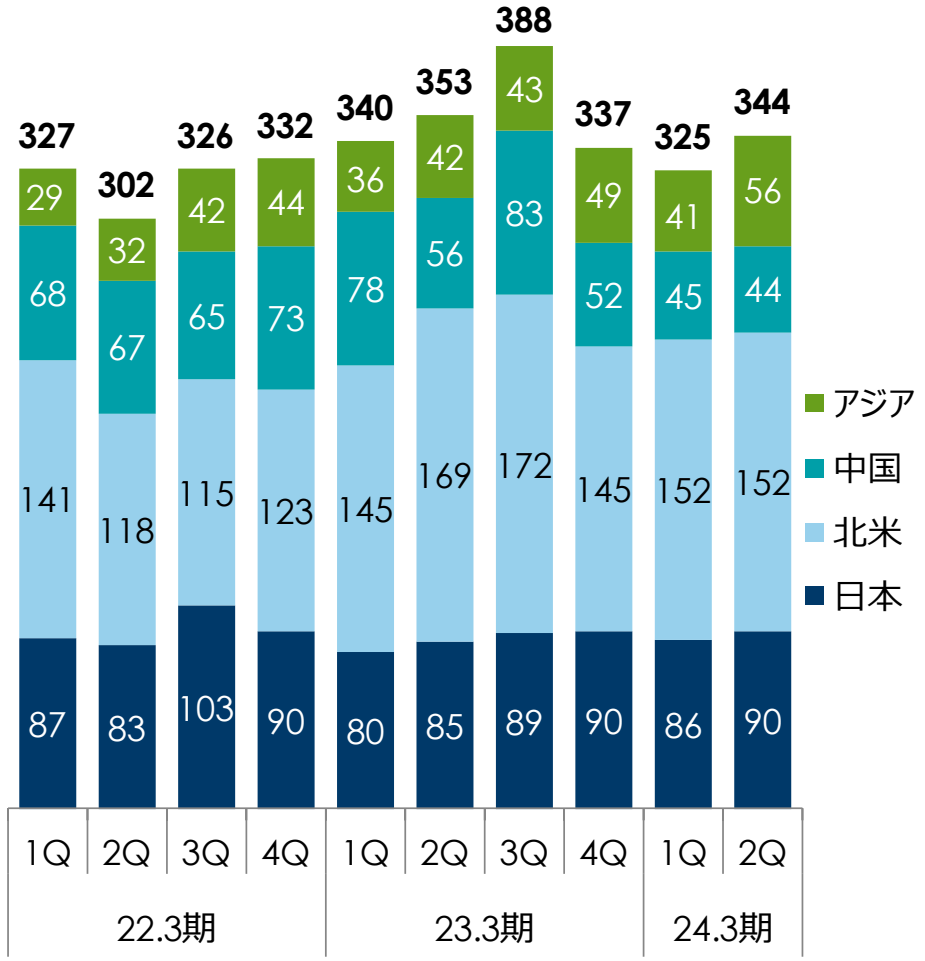
ケミカル事業・営業利益 増減分析



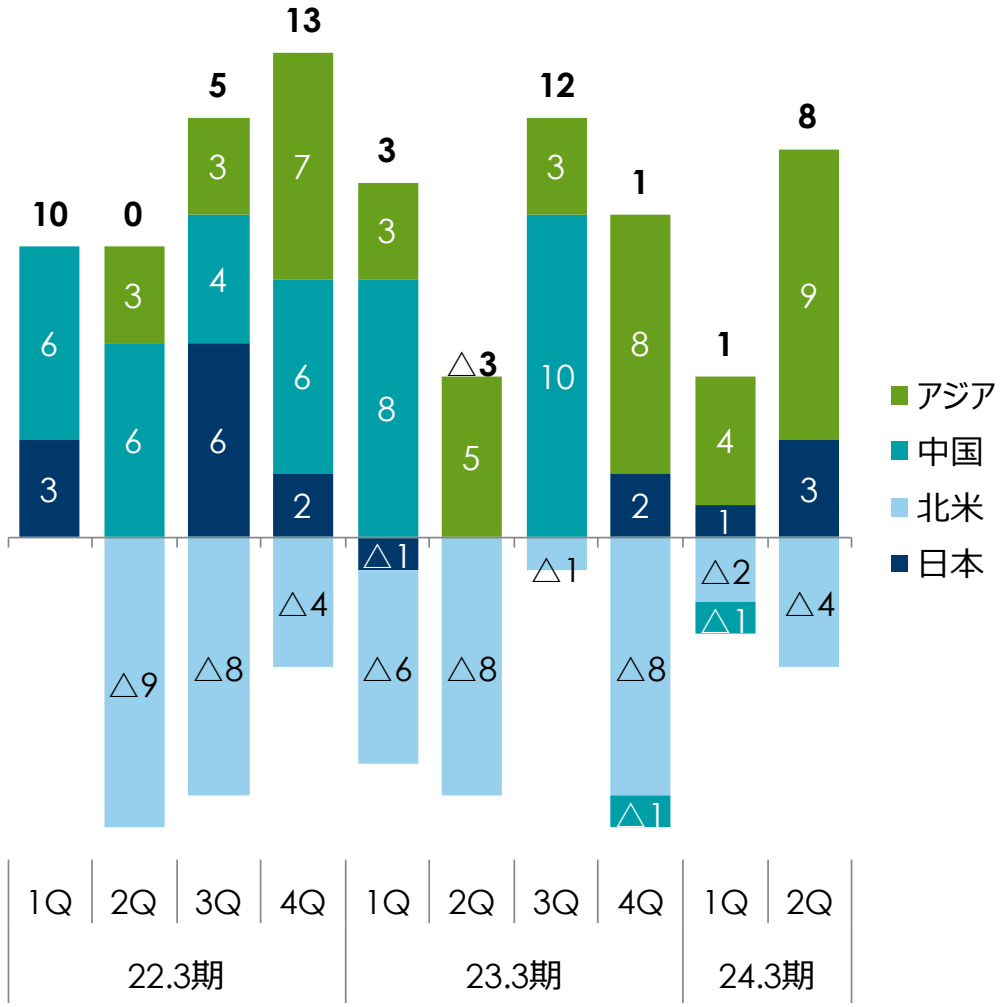
所在地別・四半期推移

北 米：生産変動に伴う稼働ロス（主に労務費）により、アラバマ工場で収益性が低下
アジア：グレードの高い車種の増産により、付加価値が大幅に増加

所在地別・四半期売上高（億円）



所在地別・四半期営業利益（億円）



2024年3月期第２四半期 貸借対照表（概略）

森六 MORIROKU

株価上昇により投資有価証券が増加したほか、設備の更新等により有形固定資産が増加
自己資本比率は51.6%、引き続き、安定した財務基盤を維持

（億円）

	23.3期末	24.3期 2Q末	差額		23.3期末	24.3期 2Q末	差額
流動資産	736	**776**	40	**流動負債**	535	**571**	**36**
（現預金）	182	**193**	11	（買入債務）	220	**255**	**35**
（売上債権）	345	**375**	29	（短期借入金）	231	**217**	**△ 14**
（在庫）	140	**158**	17	（未払法人税等）	5	**6**	**1**
固定資産	581	**637**	56	**固定負債**	76	**99**	**23**
（有形固定資産）	461	**485**	24	（長期借入金）	27	**42**	**14**
（投資有価証券）	84	**115**	30	**負債合計**	611	**671**	**60**
				純資産合計	706	**742**	**35**
資産合計	1,317	**1,414**	96	**負債純資産合計**	1,317	**1,414**	**96**
				借入金	259	**259**	**0**
				自己資本比率	52.6%	**51.6%**	**△1.0pt**

2024年3月期第２四半期 キャッシュ･フロー

森六 MORIROKU

生産状況の回復により、営業活動CFが増加した結果、フリーキャッシュフローは35億円

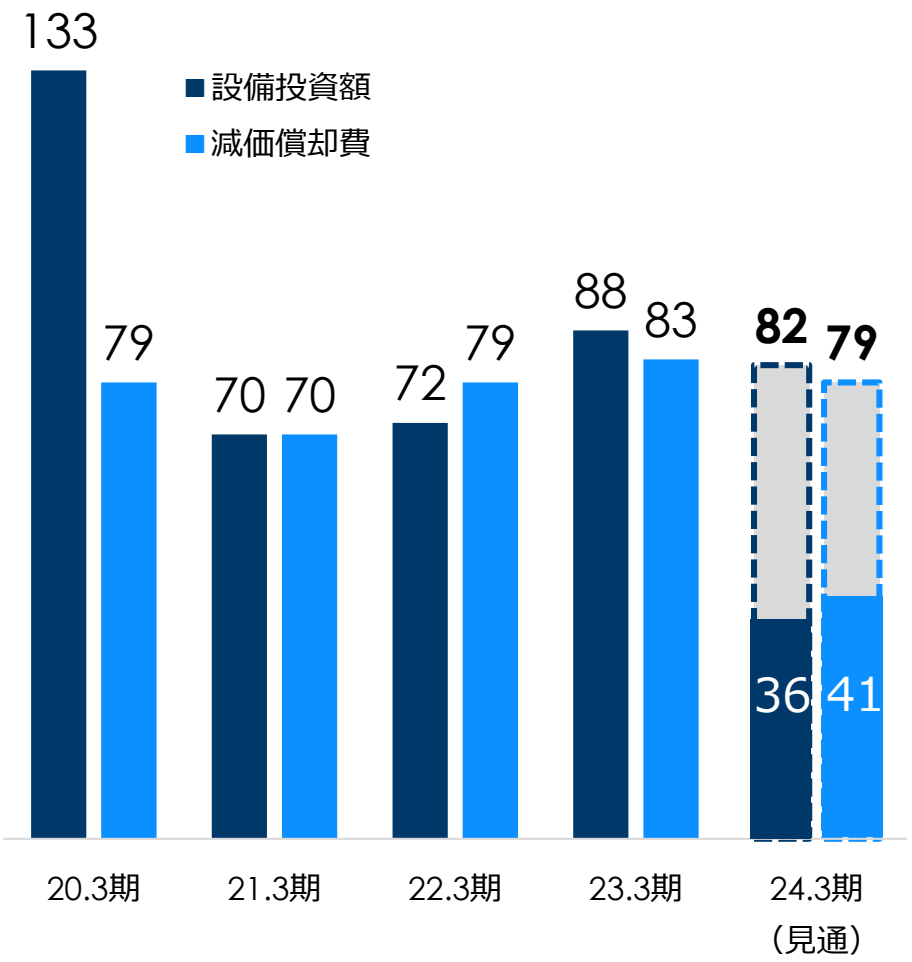
（億円）

	23.3期 2Q	**24.3期 2Q**	差額
営業活動によるキャッシュフロー	31	**72**	41
投資活動によるキャッシュフロー	△40	**△ 37**	3
フリーキャッシュフロー	△9	**35**	44
財務活動によるキャッシュフロー	5	**△ 29**	△ 34
現金及び現金同等物の増減額	6	**10**	4
現金及び現金同等物期末残高	189	**187**	△2

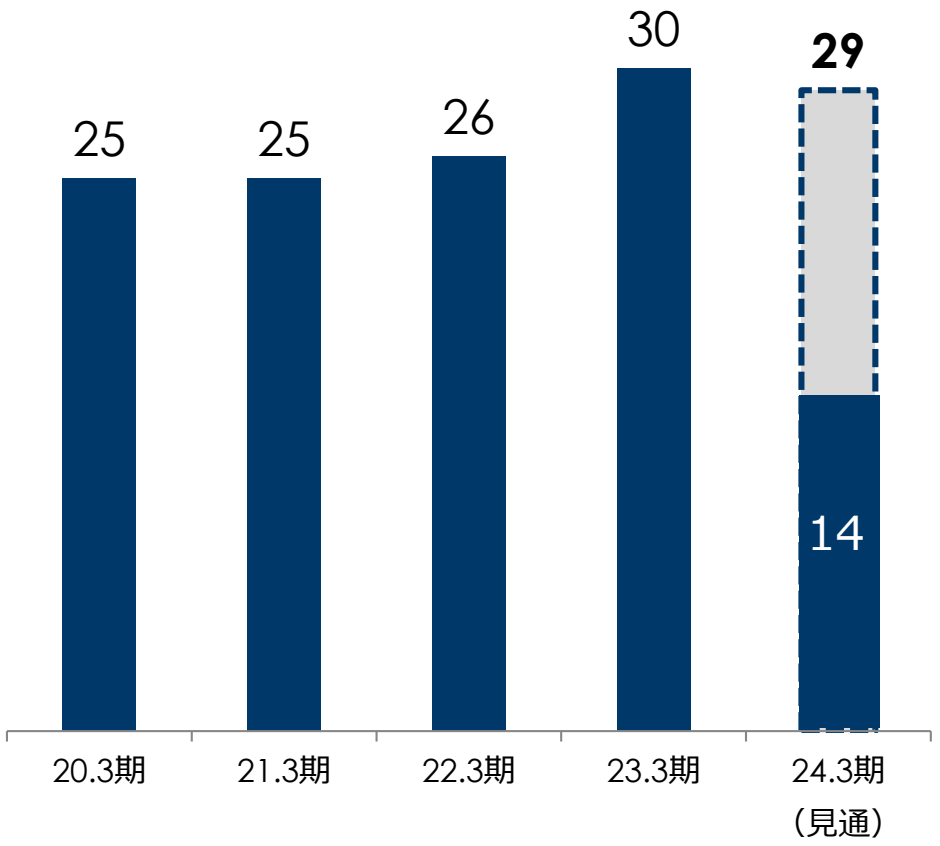
設備投資額・減価償却費および研究開発費

樹脂加工⇒新機種金型や成形機更新、ケミカル⇒ものづくり強化で、総額82億円の設備投資を見込む

設備投資額・減価償却費(億円)



研究開発費(億円)



2．2024年3月期通期の業績予想

2024年3月期　連結業績予想

森六 MORIROKU

上期の業績および為替レートの見直し等を反映し、上方修正

（億円）

	23.3期	24.3期				
	実績 (A)	期初予想 (5月12日) (B)	**修正予想 (11月14日) (C)**	増減額 (C-B)	対前期比 増減額 (C-A)	対前期比 増減率 (C-A)/A
売上高	1,420	1,300	**1,480**	180	59	4.2%
営業利益	13	35	**45**	10	31	236.8%
営業利益率	0.9%	2.7%	**3.0%**	-	-	-
経常利益	15	29	**45**	16	29	187.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	13	19	**26**	7	12	93.1%
EPS(円)	86.34	126.51	**172.63**	46.12	86.29	99.9%
一株配当(円)	100.00	100.00	**100.00**	-	-	-
為替（USドル）	135.5	120.0	**140.0**	20.0	4.5	3.3%
（中国元）	19.5	18.4	**19.5**	1.1	-	-
ナフサ価格（円/kl）	76,500	60,000	**60,000**	-	△ 16,500	△21.6%

2024年3月期　セグメント別業績予想

森六 MORIROKU

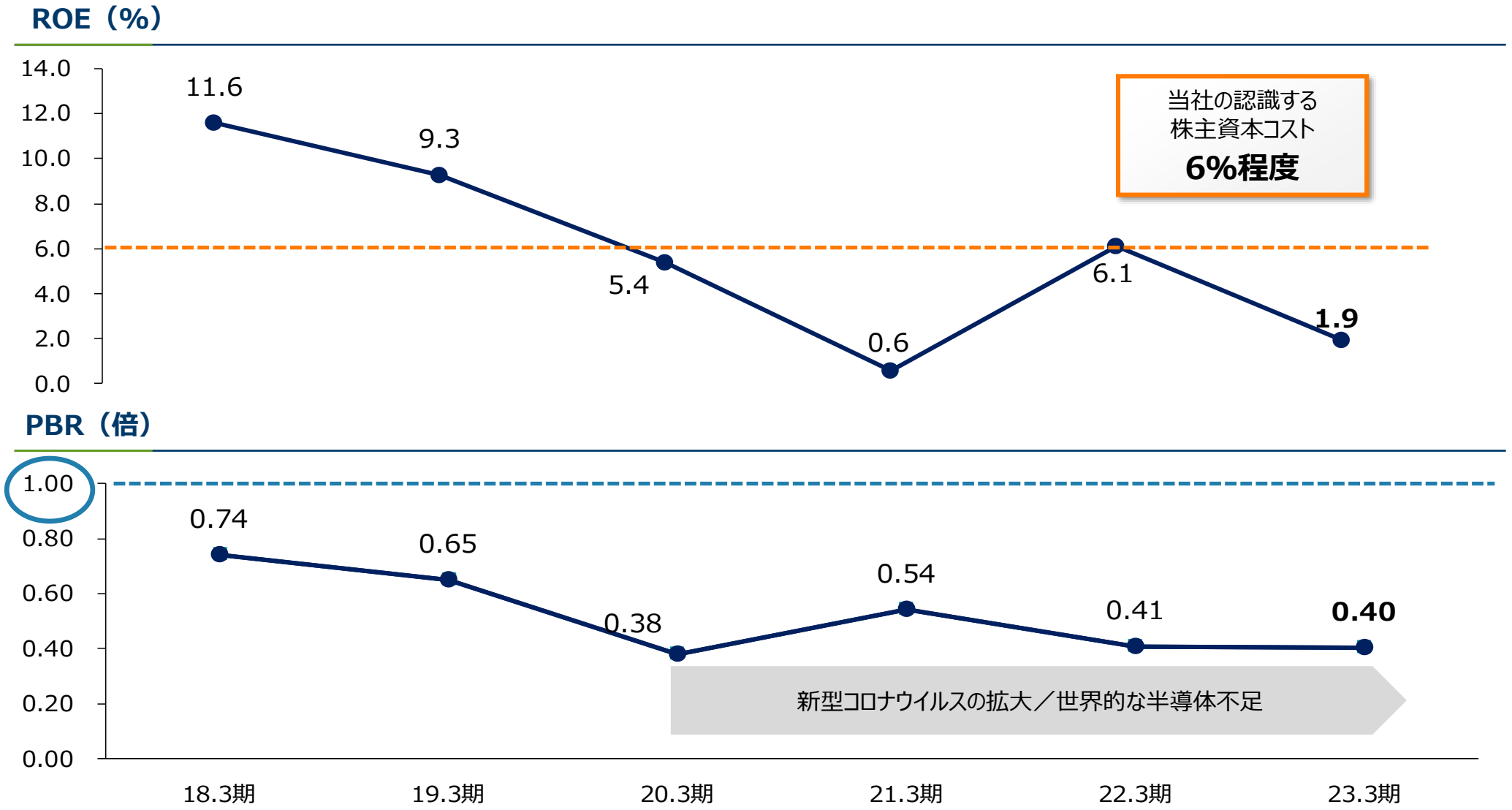
（億円）

	23.3期	24.3期				
	実績 (A)	期初予想 (B)	**修正予想 (C)**	増減額 (C-B)	対前期比 増減額 (C-A)	対前期比 増減率 (C-A)/A
売上高	1,420	1,300	**1,480**	180	59	4.2%
樹脂加工製品事業	1,122	1,020	**1,200**	180	77	6.9%
ケミカル事業	297	280	**280**	-	△ 17	△5.9%
営業利益	13	35	**45**	10	31	236.8%
樹脂加工製品事業	1	24	**33**	9	32	-
ケミカル事業	15	15	**16**	1	0	5.4%
営業利益率(%)	0.9%	2.7%	**3.0%**	-	-	-
樹脂加工製品事業	0.1%	2.4%	**2.8%**	-	-	-
ケミカル事業	5.3%	5.6%	**5.9%**	-	-	-

３．企業価値向上に向けた取組み

現状分析

ROEが資本コストを下回り、PBRは低水準で推移



今後の方針

森六 MORIROKU

PBRの向上（1倍超）を目指し、①ROEの向上と②財務と非財務両面の取り組みを通じた資本コストの低減に取り組む

ROE向上↑

資本コストの低減↓

1. 成長戦略の推進
2. 株主還元の強化
3. 資本効率の向上
4. サステナビリティ経営の深化
5. IR活動の強化

1 成長戦略の推進

森六 MORIROKU

第13次中期経営計画で定めた成長戦略を着実に実行

樹脂加工製品事業

高付加価値化による利益率の向上と積極的な販路拡大を実行

- 異業種・新規顧客拡大
- 環境商材戦略
- 次世代車に向けた価値向上
- コア技術の進化

→ トピックス①、②

ケミカル事業

事業の選択と集中を実行し、収益向上へ

- グローバル事業の拡大
  （新設したインド、ベトナム拠点を活用）
- ものづくり事業拡大による付加価値創出
  （フィルム事業、ケミカル合成事業の設備増強）

新規事業の創出

グループ会社の持つ機能・強みを活かして新事業を探索

- ライフサイエンス、ヘルスケア、環境等の新規事業領域へ参入
- 2024年までに戦略投資枠＝100億円を用意し、ベンチャー出資、M&Aを駆使して対応

→ トピックス③

1 成長戦略の推進：トピックス①

森六 MORIROKU

トヨタ自動車向けの部品供給が決定

森六 MORIROKU

NEWS RELEASE

各位

2023 年 8 月 24 日

森六ホールディングス株式会社

森六テクノロジーがトヨタ自動車向けの部品供給へ

森六グループの森六テクノロジー株式会社（本社：東京都港区南青山、代表取締役 社長執行役員：栗田 尚）は、このたびトヨタ自動車株式会社様（以下、トヨタ自動車）向けに樹脂部品を供給することが決定いたしました。森六テクノロジーからトヨタ自動車へ、樹脂部品を直接供給するのは今回が初めてとなります。

今後も、樹脂部品サプライヤーとしての強みを活かし、「車両の軽量化」「安心・安全・快適な車内空間」など、ますます高度化・複雑化する自動車業界のニーズに応えるとともに、持続可能なモビリティ社会の実現に貢献してまいります。

森六グループは 1663 年の創業以来、360 年の歴史を誇る企業グループです。グローバル市場で勝ち抜ける経営基盤のさらなる強化に取り組むとともに、環境変化を先取りし、新規事業の創造と提供価値の変革に挑み続けてまいります。

以上

【23/8/24付ニュースリリース】

既存顧客との関係強化

＋

他の取引先への販売拡大

さらなる事業成長へ

森六 MORIROKU

スペインのアントリン社と部品開発に向けた商業協定を締結

ANTOLIN

社　　名：Antolin（アントリン）
事業概要：自動車内装部品サプライヤー
(主な部品供給先・仏ルノー等)

森六 MORIROKU

アントリン社の強み

システムインテグレーションコーディネート
・エレクトロニクス制御技術
・スタイリング・デザイン(欧州テイスト)

森六の強み

インパネ部品、コンソール
・加飾、成形技術
・日本における開発、生産リソース

両社の強みを生かした協業体制を提案し、新規顧客拡大を図る

森六 MORIROKU

菌ケアサービスを展開する「株式会社KINS」への出資を実施

KINS

事業概要

「マイクロバイオーム」に着目した予防・治療により、慢性疾患の根本的な解決を目指すために創業されたスタートアップ企業

「マイクロバイオーム」とは、人の体に共生する常在菌（細菌・真菌・ウイルス）の集合体をコントロールする概念

今後の展開

- ライフサイエンス、ヘルスケア領域の事業拡大
- 両社の事業シナジーを活かしたビジネスの構築

1 （ご参考）2030年の事業ポートフォリオ

森六 MORIROKU

既存事業の付加価値向上と「新たな柱」の創出で、収益力強化を目指す

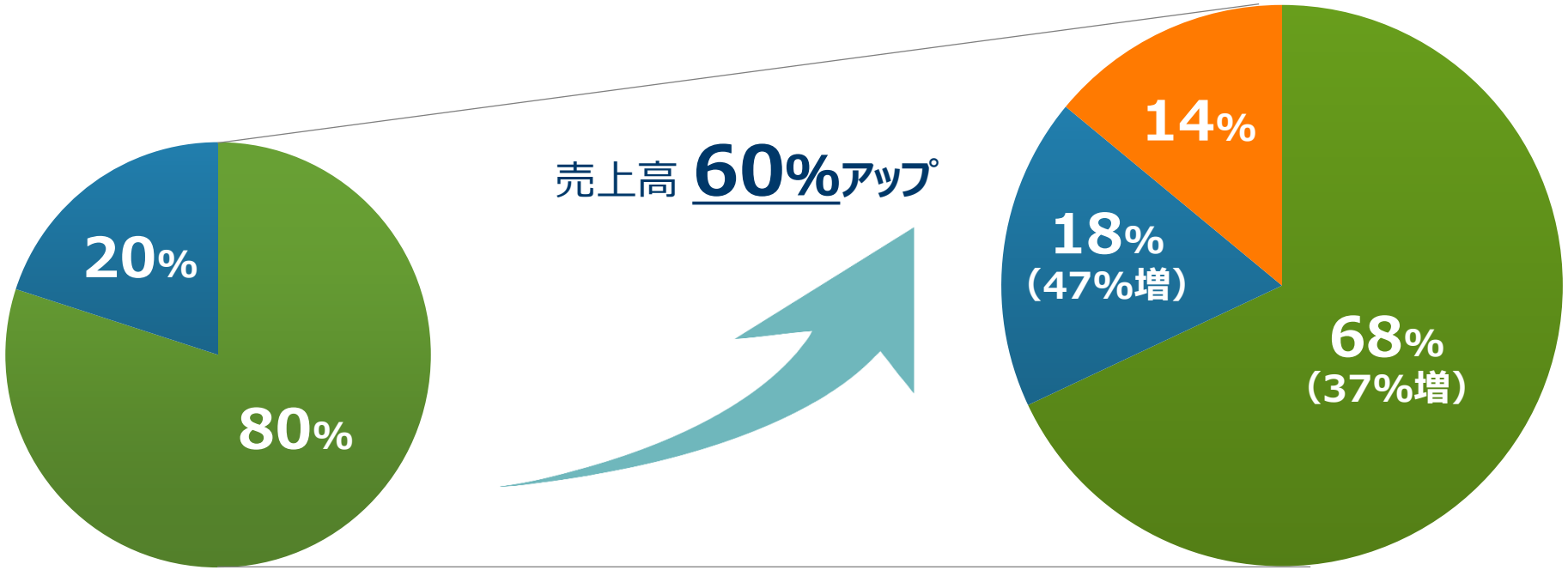
事業別売上高の割合

過年度実績（2022年度）

1,420億円

長期目標（2030年度）

2,200億円



■樹脂加工製品事業　■ケミカル事業

■樹脂加工製品事業　■ケミカル事業　■新規事業

2 株主還元の強化：株主還元方針の見直し

森六 MORIROKU

株主還元の更なる拡充のため、株主還元方針を見直し

前期までの方針

- 将来への投資や内部留保のバランスを考慮しながら、安定した配当を継続実施していくことを基本方針とする
- 自己株式の取得・消却を機動的に実施し、更なる株主還元の充実に努める

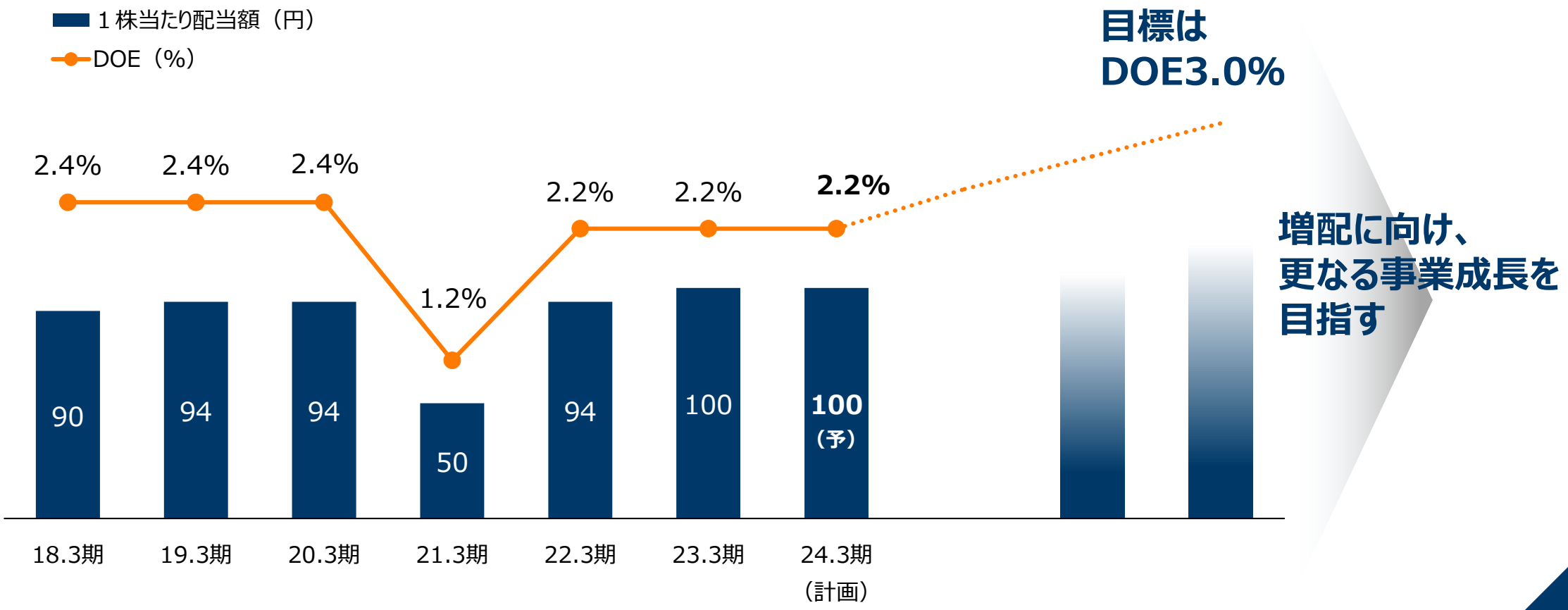
2024年３月期以降の方針

- **自己資本配当率（DOE）を指標に採用**
- **DOE2.2%を目途に配当を実施し、将来的には3.0%を目指す**
- 自己株式の取得・消却を機動的に実施し、更なる株主還元の充実に努める

2 株主還元の強化：配当の推移

増配に向け、更なる事業成長を目指す

1株当たり配当額とDOEの推移



2 株主還元の強化：自己株式の取得と消却

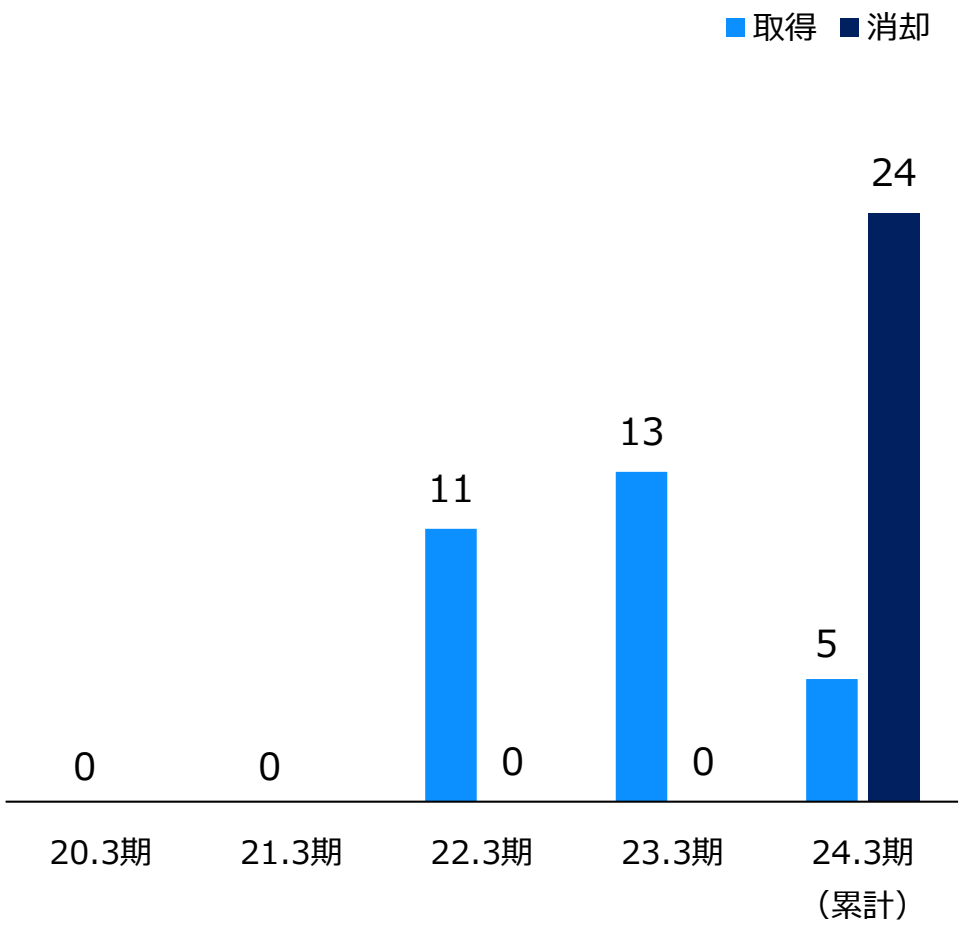
森六 MORIROKU

30億円分の自己株式の取得と、その75%の消却を決定

自己株式の取得状況

決定日	取得枠	結果
2021/11/12	10億円 （60万株）	2022/2/16 取得完了
2022/2/24	10億円 （60万株）	2022/10/24 取得完了
2022/11/14	10億円 （60万株）	2023/11/14 取得完了

自己株式の取得と消却の推移（億円）

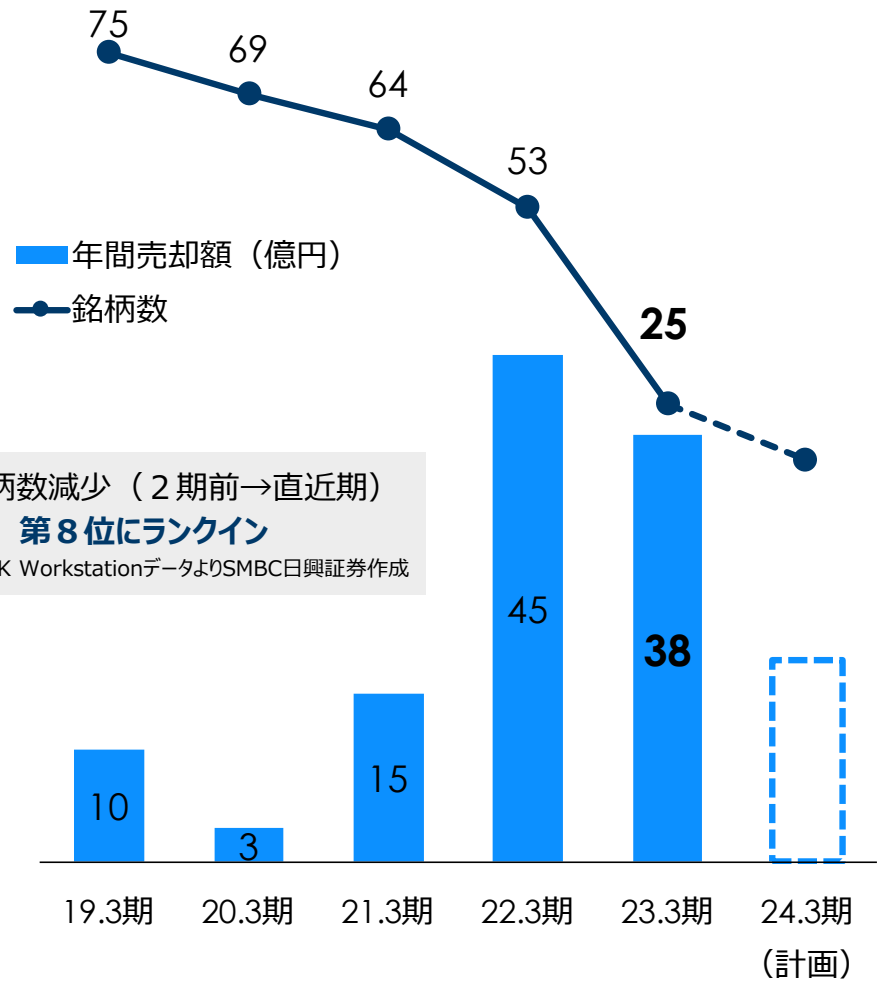


3 資本効率の向上

森六 MORIROKU

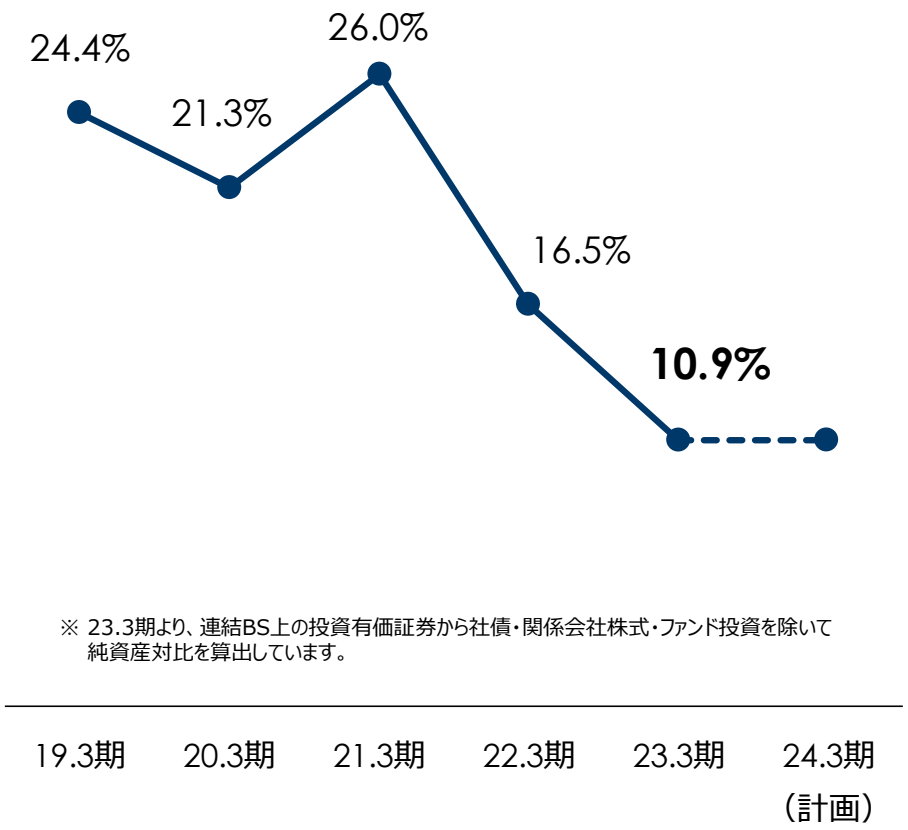
更なる資産効率の向上と財務体質の強化に向け、政策保有株式の縮減を継続

保有銘柄数と政策保有株式の年間売却額



保有銘柄数減少（２期前→直近期）
第８位にランクイン
出所：QUICK WorkstationデータよりSMBC日興証券作成

政策保有株式の純資産対比



※ 23.3期より、連結BS上の投資有価証券から社債・関係会社株式・ファンド投資を除いて純資産対比を算出しています。

4 サステナビリティ経営の深化

森六 MORIROKU

活動の実効性を高めるため、役員報酬の一部にサステナビリティKPIの達成度を反映

環境に配慮した事業活動

国内外グループ会社を挙げて GHG排出量を削減

- Scope1・2について、再エネと省エネの掛け合わせで削減に取り組む
- 第13次中計期間内にはScope3に着手
- TCFD枠組での情報開示の充実

多様な人材の確保と育成

ダイバーシティを推進し、人材と組織の活性化を図る

- 外部プロフェッショナル人材、エンジニアの獲得
- 社員エンゲージメントの向上
- 自己株活用等を含め、人材への積極的な投資
- 多様な人材が活躍し、イノベーションを創出する組織づくり

DXの推進

デジタル技術の活用によってビジネスを変革する

- リモート営業、オンラインマーケティングなど、営業スタイルの変革
- 製造現場へのIT導入による自動化・省人化

コーポレート・ガバナンスの高度化

取締役会の多様性を確保し、実効性・透明性向上に取り組む

- 取締役会の実効性評価を実施、定量・定性両面で把握
- ボードメンバーの女性比率向上

知的財産戦略の強化

事業戦略・研究開発・知財戦略の三位一体による競争力向上

- IPランドスケープの実施
- グローバル知財体制構築、知財知識のボトムアップ

5 IR活動の強化

森六 MORIROKU

積極的な対話と、ESGを含む情報開示の充実により、将来への期待を醸成

機関投資家向け

能動的なIR活動を通じて、
当社の成長戦略の発信を強化

- アナリストカバレッジの獲得
- 統合報告書の発行を通じた価値創造プロセスの発信強化（2024年９月予定）
- ESGスコアの向上による各種インデックスへの採用拡大
- 施設見学会、技術説明会の実施

個人投資家向け

対話の機会を増やし、
個人投資家からの認知の拡大に努める

- IRフェアへの参加
- 個人投資家向け説明会の定期的な開催
- 知名度向上に向けた広告、メディア出稿
- WEBサイトやIR制作物を通じた情報発信の強化

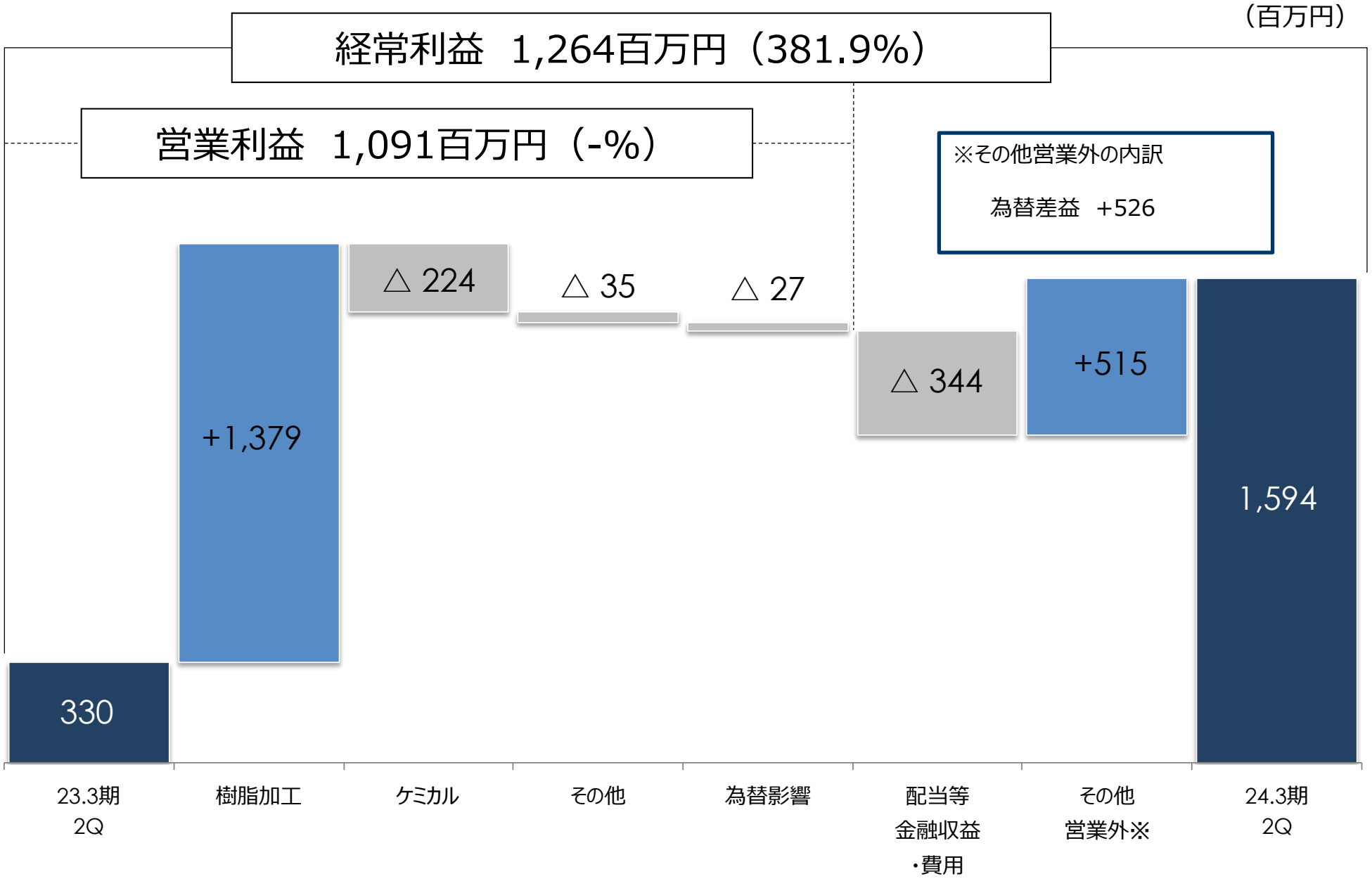
全　体

投資家との対話を通じて得た情報を、経営に反映

- 半期毎に、決算後の投資家の反応を取締役会で報告
- 投資家との対話で把握した意見やニーズを、適宜フィードバック
- 事業部門の責任者、必要があれば、社外取締役や監査役もIR活動に参加できる体制を整備

4. 参考資料

経常利益・営業利益 増減分析



2024年3月期第２四半期　所在地別売上高・営業利益

森六 MORIROKU

（億円）

	23.3期 2Q	構成比率	24.3期 2Q	構成比率	増減額	増減率
売上高　計	693	100.0%	**669**	**100.0%**	△ 24	△3.5%
日本	165	23.8%	**176**	**26.4%**	11	7.1%
北米	314	45.3%	**305**	**45.6%**	△ 8	△2.9%
中国	135	19.5%	**89**	**13.4%**	△ 45	△33.5%
アジア	79	11.4%	**97**	**14.6%**	18	23.2%
その他	0	0.0%	**0**	**0.0%**	0	24.6%
営業利益　計	△0	-	**10**	**100.0%**	10	-
日本	△ 1	-	**5**	**48.7%**	7	-
北米	△ 14	-	**△ 7**	**△69.8%**	7	-
中国	7	-	**△ 1**	**△16.4%**	△ 9	-
アジア	8	-	**14**	**134.3%**	5	72.8%
その他	0	-	**0**	**4.7%**	△0	△24.4%
調整額	△0	-	**△0**	**△1.5%**	△0	-

【ご注意事項】

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは異なる結果となることがあることをご承知おきください。

森六ホールディングス株式会社